

事業終了時の様子

(ア) 高価値農産物の生産技術普及と供給体制整備

果樹・野菜栽培技術の普及



3 月、キルティプール園芸センター専門家による柿苗木植付けへの技術指導。



5 月、温州みかん植付けの前の土壌準備、直径 1m、深さ 1m の土壌を一度掘り起こし、堆肥と混ぜて再び戻す作業。



7 月、シンズリ郡の苗畑業者より搬送された温州みかんの苗木。苗木代は住民が負担し、事業では搬送を支援。50 世帯が参加。



温州みかんの苗木を事前に土壌準備を行った農地に植付け。



1 月、トマトハウス栽培実習の様様、基本的な土壌管理知識からトマトハウス建設、苗畑管理に至る合計 6 日間の研修を実施。



6 日間に渡る集中研修の最終日、復習と注意事項に関する講義を真剣に聞く参加者たち。



5 月、既にトマトの収穫がスタート。



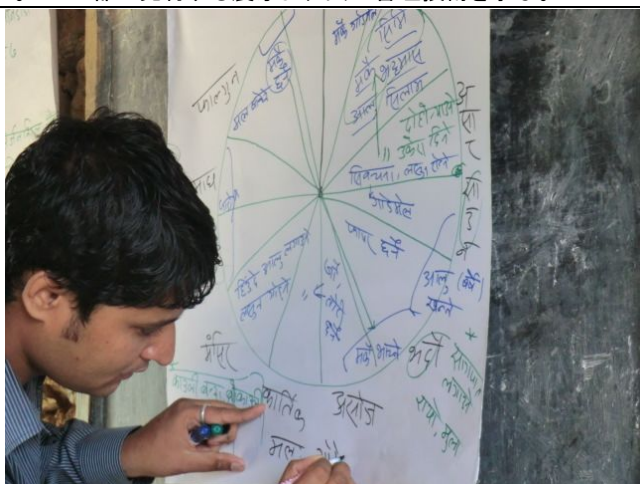
篤農家によって実践されている家畜の尿と現地のハーブ「ニーム」を混ぜた有機殺虫剤。



6 月、トマトハウス栽培農家を対象にしたフィールドスタディツアー。カブレ郡の先行する農家よりネット管理技術を学ぶ。



カトマンズの最大野菜卸売市場、カリマティ市場にて卸価格やトマトの生産地について調査。



5 月、マガル族コミュニティにおける野菜栽培研修、作物カレンダーを住民と共に作成。



土壌の栄養管理など基礎的な知識から、混合栽培の利点まで、野菜栽培に関する包括的な講義を熱心に聞く参加者たち。



カリフラワーやブロッコリーの苗畑作り、人参や各種豆類の植付け実習の様様。



大野二等書記官から野菜栽培研修に参加した住民に、事業開始後の変化に関する質問。「新しい技術を学ぶ機会を得ることができるようになった。」との回答が複数名から上がる。



8月、5月の研修で学んだカリフラワー、ブロッコリーや人参などの野菜栽培を実践する農家



花蕾の生育が始まったカリフラワー。

家畜飼育・ミルク生産技術の普及



5月、獣医による家畜の栄養管理と疾病対策に関する研修を実施



家畜の世話を担う女性も積極的に研修に参加。

(イ) 農業生産環境の保全と強化

土壌保全技術の普及



4 月、A フレームを使った等高線測定技術のフィールド実習



7 月モデル農家を対象に ICIMOD(International Centre for Integrated Mountain Development)で等高線栽培モデルを見学するスタディーツアーを実施。熱心にメモを取る参加者たち。



7 月、モデル農家によって開始された飼料作物の等高線栽培。継続事業でライムの植付けも予定している。



3 月、キルティプール園芸センター専門家による土壌マネジメントの研修を実施。



ミズ堆肥ピットの準備。



8 月、モデル農家によって設置されたミズ堆肥ピット。3 月の研修で準備されたミズ堆肥ピットで増えたミズを移植。

小規模灌漑の設置



建設資材の石を運ぶ住民。乾期における農産物栽培を可能にする小規模灌漑へのニーズは高く、住民は積極的に労働力を負担。



貯水タンク用資材として、住民が石を砕いて生産した碎石。



5月、在ネパール日本国大使館大野二等書記官による現場視察。



雨期で車道が閉鎖されたエリアには麓からラバを用いて建設資材を搬送。



クセスワ・ドゥムジャ村書記官(右側)による現場視察。



貯水タンク壁面に掲示されたODAプレート。小規模灌漑によって、179世帯が裨益し、乾期における農産物栽培が可能となる。